



33:1 そこでヨブよ。どうか、私の言い分を聞いてほしい。私のすべてのことばに耳を傾けてほしい。

33:2 さあ、私は口を開き、私の舌はこの口の中で語ろう。

33:3 私の言うことは真心からだ。私のくちびるは、きよく知識を語る。

33:4 神の霊が私を造り、全能者の息が私にいのちを与える。

33:5 あなたにできれば、私に返事をし、ことばを並べたて、私の前に立ってみよ。

33:6 実に、神にとって、私はあなたと同様だ。私もまた粘土で形造られた。

33:7 見よ。私のおどしも、あなたをおびえさせない。私が強く圧しても、あなたには重くない。

33:8 確かにあなたは、この耳に言った。私はあなたの話す声を聞いた。

33:9 「私はきよく、そむきの罪を犯さなかった。私は純潔で、よこしまなことがない。

33:10 それなのに、神は私を攻める口実を見つけ、私を敵のようにみなされる。

33:11 神は私の足にかせをはめ、私の歩みをことごとく見張る。」

33:12 聞け。私はあなたに答える。このことであなたは正しくない。神は人よりも偉大だからである。

33:13 なぜ、あなたは神と言い争うのか。自分のことばに神がいちいち答えてくださらないというて。

エリフはヨブの心に、神の全能に向き始めるきっかけを与えました。それは、「真心」から語り、自論ではなく「全能者の息（霊）」によって語り、

「あなたと同様だ」と謙遜に語り、「おびえさせない」ような愛の配慮があったからです。「病は罪があるからだ」と、一方的にヨブを非難した友人たちとはその点で違っています。

その上でエリフは、神が言い争うこともできない、偉大な方であることを述べます。まさに昨日引用したローマ書の聖句のとおりです。

人は自分の力で説得しようとする、相手を「強く押し」、傷つけたり、また自分の主張を繰り返したりするものです。全ては主の御手の中にあります。主の御心を語ろうとする場合、相手の変化についても御心に任せる必要があります。そのとき、主への思いによって相手に気づきを与えられるのではないのでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

